

事業計画 2021年1月1日から12月31日

2021年の前半はコロナの影響が残ると思われるが、2020年から延期されたAPDF2020(2021年実施)の開催とエッジによっては節目となる創立20年を迎える。各事業は経営努力と創意工夫、オンライン化による効率化などにより、収益が認められるようになった。また、事務所をシェアオフィスに移転したことにより固定費が大幅に減少した。ニュースレターの内部での作成、ICT技術の活用による通信手段の工夫など本年もまだ効率化の余地はある。

運営(柴田、西島、根川)

事務所:移転先は国の施策や各種補助金などの情報もノウハウも多く有しており、運営上助かっている。研修室や会議室も東京都三田という立地を考えると破格で使用ができる。よい決断であったと思う。

収支:2020年度はこれまで取り組んできた各事業の支出が減り、売り上げが増加した。さらに各事業で工程の効率化や利用者の増を図る。

会員:新たにこれまで培ってきた人材のコミュニティーを作り、情報や経験の共有を図っていききたい。

コロナへの対応:テレワーク、オンラインがほとんどの中でコミュニケーションをスタッフ内で取れるような仕組みを作っている。

コロナによる巣ごもり需要だけではなく、オンラインで各事業を展開することのメリットを確認して、より良いサービスを検討する。

寄付は賛助会員を増強することと、大口の寄付者へのお願い、PAYPAYを利用した新しい寄付の受け入れ口、遺贈についての受け入れの準備をしていく。

1) 啓発 (藤堂、柴田、辻)

DXセミナー 辻、藤堂 ZOOMにて

一年間のスケジュールを決め、毎回エッジの事業に関連するトピックを紹介

1月 BEAM

2月 英語 ジョリーフォニックス

3月 相談・アセスメント

4月 MOOC「子供の味方の教え方」

5月 LSA(学習支援員)

ニュースレター 柴田

(55号(2月25日), 56号(7月25日), 57号(10月25日) 会員、寄付者等に毎回200人に発送、そのあとウェブに掲載、内部で制作

メルマガ 柴田

メルマガ 1~11(11回) 毎月10日発行 各回3000件送信

フェイスブック 藤堂 柴田

週に2,3記事を掲載。読み書きに関する国の動き、講座などのお知らせ、海外のニュースなど フォロワー4000名ほど、広告を打つと10000ビューまで行く

2) BEAM (文部科学省委託事業) 藤堂、上田、鴨井、中嶋

中学校の改定に取り組む

対費用効果を考え、普及に力を入れる。外国につながりのある児童生徒、学校図書館などでの活用、ウェブ上における動画配信で普及を図る。

3) MOOC 英語 日本からの受講300名 テキスト 継続

こちらからの働きかけはないが、日本語訳のテキストはコンスタントに売れている。

MOOC 日本語「子供の味方の教え方」7月でFISDOM上では終わり。LSA入門講座のように内部化するかの検討を進める。

4) LSA 講座 (藤堂、高尾) テキスト

7月から一日ニコマで10日間のスケジュールに変更。オンライン授業とし、ほとんどの講座をZOOMまたはアーカイブにて提供。単発受講者を増やす。修了生のコミュニティーを作る。

5) 相談・アセスメント(樋口)

従来の相談・アセスメントをオンラインでできるように変更。

東京都子ども輝く東京・応援事業（藤堂、河野、上田、樋口）2年目、GIVEONE 関東圏

- 1) 説明会（東京都：小金井市、目黒区、大田区、荒川区、関東圏：小田原市、和光市他）
- 2) アセッサー養成講座（あと10名）
- 3) 相談・アセスメント（年間100名）

6) ジョリーフォニックス(高尾、柴田) 山下、丸山、藤堂(亜美)

5月から月一回日曜日にスケジュールを変更。講師は丸山敦子先生
対象年齢4年生から6年生。

7) DX会 2か月に一回近郊の散策

8) APDF2020 2021年5月8日、9日実施、岡山コンベンションセンター

会場参加、ライブオンライン参加、アーカイブ参加と参加方法を変更

アジア太平洋からのゲストは前もってビデオを収録の上参加。

岡山会場では講演、シンポジウム、ブース(国内の講師もオンライン登壇も可)

アーカイブでデジタル才能展、ポスターセッション、海外講師の講演など

国際交流基金、岡山市助成

事務局を読み書き配慮に委託

9) 書籍販売:

ディスレクシアでも活躍できる、英語テキスト、日本語テキスト、LSAテキスト、カレンダー
「ディスレクシアとは?」「アセスメントから合理的な配慮」などについて書籍作成

